飾られた話

楠木稚

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

飾られた話

【コード】

N2950H

【作者名】

楠木稚

【あらすじ】

ある王国の繁栄から衰退へ向かう、お姫様の話

天空が蒼く澄んだ下の王国
黄金を抱き、生まれ出でた赤ん坊
母とも父とも違う金色の髪
その赤ん坊は生まれながらにして
黄金以上の価値のある者

しかし美しき髪 of 代償と言わんばかりか
その娘の目は黒く濁っていた

白くきめこまかな肌、誰もが美しいと言う
当たり前、日を浴びずに生かされた

しなやかな肢体、誰もが美しいと言う
当たり前、裕福な暮らしだもの

私は人形ドール国民に愛された人形ドール

ここでは私は愛らしい姫君
誰にも愛される…

そんなもの捨ててしまいたい

外見だけで皆、私を理解する
知ったような顔しないで
誰も私の瞳を見てはくれない…

きらびやかなドレス、誰もが美しいと言う
当たり前、国が豊かだから

シルクのような髪、誰もが美しいと言う
当たり前、侍女が手入れをするもの

私は人形国ドールケースを飾る人形ドール

ここでは私は美しい姫君
誰もが人として見てくれない

誰もいい、美しい瞳で私を見て

美しい、美しい
そんな言葉が欲しいわけじゃない
誰も私の瞳を見てはくれない…

「美しい、髪ですね」
それは私の心を抉る言葉
貴方は平気でそれを口にする

綺麗な金色の瞳で私の金色の髪だけを見るだけで…
お願い私の瞳を見て…？
彼の瞳へ、私はそっと手を伸ばした…

姫様が…隣国の使者の両目を…何故こんなことを…平和の取り
消し…戦争が…あの女は魔女だ！

噂は尾ひれを増し、真実味を帯びる
当たり前、だって火のないところに煙りは立たない

魔女は火炙り、王（父）と王妃（母）は庇いもしない
当たり前、全ては私のせいだから

私は人形捨てられる人形

ここで私はやっと手に入れた
私だけを見てくれる金色の瞳を

彼女の瓶の中には赤い丸いものが二つ

この金色の瞳があれば
もうどうなってもいい
やっと皆の顔色（瞳）を見なくてすむのね！

焼却炉に入れられた人形は
美しい金色を、赤い炎と共に舞わせ
黒い糸（意図）を紡ぐだろう

この話は王国が滅びる少し前の話…

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2950h/>

飾られた話

2011年10月9日17時09分発行